



浅野さとし衆議院議員・国政レポート

衆議院議員
浅野 さとし

電機連合
組織内公認候補
平戸 航太

「平戸航太」とともに スタートラインへ

日立グループ議員団会長 衆議院議員 浅野 さとし

日立グループ連合の皆様には、いつも温かいご支援に心より御礼申し上げます。私が住んでいる茨城県日立市では満開だった桜が散り始め、気付けば季節は冬から春へ、あっという間に変わってしまいました。最近花粉症に悩まされる日も多くなってきました。皆様もご自愛ください。

適正な価格転嫁の普及をめざす

さて、トランプ氏がアメリカ大統領に再任されてから早3ヵ月。この間、トランプ大統領は厳しい通商政策を次々と打ち出しています。とりわけ衝撃的だったのは4月初頭、日本から輸入される自動車に25%の追加関税を課し、それ以外の全輸入品にも「相互関税」として一律24%の追加関税を導入することを発表したのです。まさに“Tariff Man”の復活です。米国はこれから、米国内の物価高や景気後退圧力に直面するだけでなく、グローバルサプライチェーンからの分断など、国際社会における経済連携の在り方が変わっていく局面に入りました。日本も経済安全保障の一層の強化と基本戦略の見直しが急務です。政府には短期的な円高圧力への対応も含めて、米国との新しい経済連携上の関係性を構築するため戦略的な対応を求めています。

一方で、国内経済には明るい兆しもあります。春闘の結

果、大手企業に加え中小企業でも昨年を上回る賃上げが実現され、賃上げの連鎖が着実に広がりを見せています。アメリカの関税強化による外部環境の変化は無視できませんが、このような時こそ、国内サプライチェーン全体での適正な価格転嫁の流れは止めてはなりません。今年の国会では下請法改正も予定されており、価格転嫁に関する規律等が一層強化される見通しです。私も国民民主党の一員として、適正な価格転嫁のさらなる普及と、給料が上がリ、手取りが増える経済環境の構築に向けて努力してまいります。

最後に、今回、電機連合が組織内公認候補として擁立した平戸航太さんは、7月の決戦に向けて全国を精力的に走り回っています。しかし、半年という限られた期間で訪問できる地域には限界があります。私も様々な場面で連携を取りながら、全力で取組んでいきますので、日立グループ連合、電機連合がワンチームとなって、ともに頑張りましょう！

幹事長の主張

日立グループ議員団幹事長 八尋 伸二 秦野市議会(日立労組/ヴァンタラ支部)

国内経済を好循環とするタイミングは今

日頃より日立グループ議員団の各種活動に対しご理解とご協力を賜り心から感謝申し上げます。

経済の好循環には政治の力が必要

2024年・2025年春闘では賃上げが進み、物価上昇に見合った消費拡大策が求められています。

そんな中、米国のトランプ大統領が「相互関税」を導入し、日本への関税を一時24%、その後一律10%に設定しましたが、自由貿易から保護主義への転換が進み、経済戦争とも言える状況が始まる様相です。

2023年、日本の総輸出の約20%が米国向けであり、影響は甚大です。この局面を乗り越

えるためには、政治の交渉力が鍵となり、労働状況を理解した議員を国会へ送り出すことが、今こそ重要です。

日立労組出身の電機連合組織内公認候補「平戸 航太」氏の7月の決戦に向けた活動へのご理解とご協力をよろしく願いいたします。

データ分析から政策立案

2月7日、日立グループ議員団の全体会議を「ゆいまーるひたち(日立労組本部)」にて開催し、「EBPMによる政策立案」をテーマ

とした研修会を実施しました。

講師には、私が所属する秦野市議会でも政策提言に関するアドバイザーを務めていただいている、一般社団法人地方公共団体政策支援機構の長内伸悟氏をお招きしました。

私たち日立グループ議員団は、議員本来の執行機関への監視機能に加え、EBPM(Evidence-Based Policy Making)に基づく意思決定やアジャイル型の政策対応など、企業で培った経験を活かし、各自治体の実情に即した行政への提案を行ってまいります。

これからの厳しい時代だからこそ、私たちは住民の皆様の声とデータをもとに、より良いまちづくりをめざしていきます。

大学生との意見交換会を実施

胎内市議会

学生との意見交換



魅力あるまちづくりに取り組む



渡辺 宏行
(産機労組/中条支部)

開かれた議会の取組みの一環として、本年1月10日に新潟食料農業大学 胎内キャンパスで、大学一年生100人と議員との意見交換会を実施しました。

この意見交換会は、大学の学生たちへの「主権者教育の情報リテラシー特別授業」として、市議会出前授業形式で行いました。テーマは「胎内市をもっと魅力的な市にするには」、「どんな胎内市になったら住みたいか」について意見交換を行いました。

学生からは、ごみ収集の回数や娯楽の場が少ないこと、街路灯や道路の損傷など、日常生活にかかわる数多くの改善すべき意見が出されました。

また、新潟食料農業大学と胎内市は、包括連携協定を締結しており、食や農業を中心とした地域振興や人材育成にも取り組んでいます。

学生との意見交換会は今回で2回目になりますが、学生たちの中には県外出身者が多く、胎内市が学生たちにとって第2の故郷と言えるように「魅力あるまちづくり」をめざして取り組んでいきます。

日立市議会

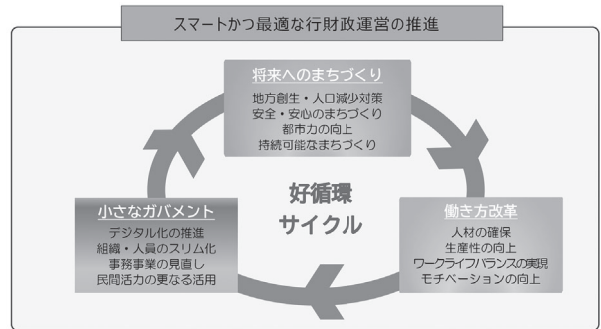
経営改革に向けた取組みについて



業務推進体制の再構築に取り組む

日立市においては、本格的な人口減少社会を迎え、市税などの歳入減少、および社会保障経費などの歳出増加が見込まれるなど、今後一層の財政構造の硬直化が懸念されています。

そのような状況下で、本市は、総合計画の着実な推進による「将来へのまちづくり」や時代の要請による「働き方改革」を進めるため、行政運営の効率化とスリム化による「小さなガバメント」をめざしていく必要があることから、約30年にわたり取り組んできた個々の事務事業を見直す行財政改革からステップアップし、経営的視点を強く意識した新たな自治体経営に向けた取組みを進めることとしました。



具体的には、令和7年度からの先行取組みとして、原則無休の公共施設に定期的な休館日を設けるほか、行政のデジタル化による職員の適正配置を進めるなど、業務推進体制の再構築に取り組んでいます。

さらには、本格取組みとして、令和8年度を初年度とする「(仮称)経営改革マスタープラン」を策定し、経営改革の取組みを加速させます。民主クラブとしては、スマートかつ最適な行財政運営の推進を図るとともに、市民サービスの維持と質的向上に努めてまいります。

子ども食堂に行ってみよう!

下松市議会

ダンボールで作った新幹線



紙コップで作った鬼

三世代交流・地域交流の場所に



磯部 孝義
(日立労組/笠戸支部)

現在、市内には9箇所の子どもの食堂が登録されています。その名称は「WAI-WAIオアシスはたおか」「Yoi-Yoiキッチンとよい」「Waku-Waku倶楽部笑久保」などめざす姿と地域の名前を組み合わせたネーミングです。活動も食事の提供だけでなく、学習支援や高齢者・子どもと一緒に楽しめる昔の遊び、プロレス観戦など様々なイベントが計画・実行されています。私は2箇所で作成教室を実施しており、紙コップで「鬼」「こいのぼり」やダンボールで「電車」を子どもたちに製作してもらっています。孫

に持って帰りたいと高齢者の方が作られることもあります。

現在では親子連れや高齢者の参加など、三世代交流・地域交流の場所になっています。活動には若い世代の方が多くかわられ、協働のまちづくりにつながっています。

市では今年度から子どもの居場所づくりとしての子ども食堂への支援の動きがあります。継続的・魅力的な活動につながる提案と、子どもたちが楽しみにしている工作教室の実施を進めていきたいと考えます。